

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町450番地		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyoSyCd=4270700257-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成28年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールには明るい陽射しが差し込み、温かく賑やかな雰囲気です。緑豊かな自然に囲まれており、一步外に出れば四季折々の草花に触れる事ができ、散歩を楽しみ情緒ある日々の暮らしを営んでおります。新鮮な野菜や鮮魚を取り入れた食事が準備されており、美味しい匂いがたち込めてホール内を家庭の様に温かく包んでくれます。毎朝カスピ海ヨーグルトを提供し、健康維持、便秘予防に努めています。また毎月誕生会や行事の際には、利用者様が希望されたメニューを手作りで提供して大変喜ばれています。昔から行われてきた彼岸法要、神父様友愛訪問、ジャンガラ奉納等を楽しむことができ昔を懐かしみ地域と共に歩んできた皆様の思いを四季を通して、今でも肌で感じるすることができます。利用者様、ご家族様の気持ちを大切にしながら皆さんの安心した温かい空間である様、職員一同日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者との一日一日を大切に過ごしたい」との想いを持って日々のサービスが行われており、穏やかな日常の中にも「楽しみ」がある生活を目指されています。「利用者にとって何が嬉しいか、何がしたいのか」を考え、利用者が喜ばれるような個別支援を提案したり、率先して思い出支援のボランティアを行うなど、各職員が今できることを一生懸命に考えて取り組まれている姿が見られます。自然に囲まれた広い敷地の中には、同法人の特別養護老人ホームやデイサービス、ホームヘルプサービスセンター等、様々な介護サービス事業所があり、合同での勉強会などが盛んに行われています。職員は、他サービス事業所で働く人たちと交流し、新しい情報を収集しながら協働意識を高めています。また、災害時や夜間の急患が出た場合に応援者が駆け付けれる連携体制も整えられており、利用者が安心して暮らせるように努められています。研修制度や協力体制など様々な法人のバックアップのほか、処遇面などに関しても明確な基準を設け、職員が誇りとやりがいを持って働けるような環境づくりに努められています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に職員全員で理念を唱和している。毎日、大きな声で唱和する事でチーム全体として再確認している。	職員は、法人の理念とホームの理念を毎朝一緒に唱和されており、ホームが目指す方向性を確認しながらサービス提供に繋がられています。日々のケアを振り返る確認も行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紐差町第3区2班として自治会に所属し、次長が委員として会合や地区清掃等に参加している。利用者様も回覧板を閲覧され、市や地区の活動・行事等を知られて花祭りの甘茶を取りにお寺に行くなど等交流を図っている。	地域の一員として、自治会活動にも積極的に参加され、近隣からも受け入れられています。地域の青年団や婦人会、社会福祉協議会などの協力を得て盛大に行われる法人主催の夏まつりにはホームも参加し、近所の人々も多数遊びに来られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学希望時はいつでも受け入れている。職員個人でも地域の集まりの際等、高齢者の家族より相談を受けることもあり 居宅のケアマネに取り次ぐこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、利用者ご家族、地域の委員の方、市役所介護保険班の方を招き、2か月に1回(年6回)開催し、現状報告や意見交換を行っている。実態を理解して意見をもらっているが基準配置は満たしているとの判断で現実的には人員の件など改善されていない。	事故やヒヤリハットの報告、ホーム内で実施しているデイサービスの利用状況と共に、利用者の日々の活動の様子など、写真を用いた報告が行われています。運営推進会議の開催にあたっては、事前に利用者家族への案内も行われています。	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に事業所の活動報告や取り組みを報告し、意見等を得ている。提出書類などに関しては、質問して回答を得るなど電話にて問い合わせする事もある。	通常の報告の他、わからないことがあれば直接出向いて質問や相談が行われています。市役所からは、地域の緊急避難時の受け入れなども要請されており、互いに協力しあう良い関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分の意のままに動かれる利用者様が玄関から出て行かれる事もあるが、付かず離れずの距離で見守りや職員が傍について行動を共にする事で、(時には興奮されている状態であっても)落ち着かれています。	身体拘束をしないケアを目標に掲げられており、ホーム全体で取り組まれています。外部から講師を招いて行う法人主催の研修のほか、ホーム内でも勉強会をされ、身体拘束や虐待についての理解を深められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の研修に参加した職員が伝達講習の勉強会を行い身体拘束、虐待に関して学ぶ機会を設けて一。又、各自が意識して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加する等、権利擁護について学ぶ機会を持ち必要時は活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明をし質問を受け理解や納得が得られる様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や状態報告時に家族から意見を聞き要望を取り入れている。家族との連携を密にし、ご家族の意見を常に聞き入れている。	家族や利用者からの意見や要望が出た場合は、必ずケアノートに記録を残し、解決に向けて話し合った上で迅速に対応されています。年に一度の家族会の際には、法人の事業運営報告や今後の事業計画なども発表されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議への出席ができない事もあるが毎月の委員会又拡大会議の折りにグループホームからの要望等については意見を聞き対応している。	会議の中でも職員からの意見は出ていますが、個人面談の機会も設けられており、職員からの要望や相談に対応されています。 また、出産・育児・介護休暇の他に、時短勤務なども導入されており、働きやすい環境が整えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会福祉法人白寿会就業規則を基に各職種、職員の実績、勤務状況等を把握して昇給人員配置等については配慮している。(キャリアパスシートの導入)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する勉強会、新任者、中堅者の研修会参加を受ける機会を確保している。又法人主催の研修会を通し介護について、認知症について各自が学び意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の3施設との親善風船バレー交流会参加や市の福祉協議連絡会主催のソフトバレー交流会、ボランティア活動を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当ケアマネジャーからの基本情報を元に、本人の背景を知りスタッフが共通理解することにより安心する環境を整え関わる事で本人が安心して暮らしに馴染めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がゆっくりと相談できる雰囲気作りに努め、常に家族からの要望に耳を傾けられる様にし、ご家族が安心できる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握、ご家族やケアマネジャーと密に情報交換を行い、又、職員で情報交換し合い、必要なサービスを見極めることができる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一部の家事を家事を手伝って頂く事で暮らしを共にする者同士の関係を築いてはいるが重度化により生活支援、介護者という関係性の方が強い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の知った上で共に本人を支えている言葉を伝えながら家族の絆を本人が感じる事が出来る様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会の為の外出や別の事業者から、家族の面会を受け入れたりふるさと訪問をし馴染みの人や馴染みの場所との関係性を大切にできる様支援している。	利用者が、今まで築いてきた人間関係や生活習慣を把握し、その思い出を大切に考えながら支援が行われています。墓参りへ同行したり、昔働いていた職場の饅頭を購入して懐かしんで頂いたり馴染みの関係の継続支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、個人の性格や認知症の状態、身体機能に合わせて利用者同士が関わりを持てる様、座席を配慮し会話をしたり、絵合わせのゲームをする等職員も加わりながら仲介役となり活動できる時もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去されて数年が経過しても町であつたら声をかけ近況を話したり、手作りの品を持参して訪問に来られたりと関係性を大切にして必要に応じて相談、支援に努めている。また死亡退去された方の葬儀には必ず参列し、初盆の際には管理者がご挨拶に訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尋ね、知り希望、意向を把握している。本人の意思確認が困難な場合は家族に尋ねたり気持ちを汲み取ったり皆でニーズを見い出している。	日頃の雑談の中から、利用者が考えていることや望んでいることを拾い出して、要望の実現に繋がられています。日中が忙しい時には、夜勤帯にゆっくと話を聴く時間を設けて、利用者の意向の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染の暮らしを把握しこれまでのサービスの経過を見直しながらアセスメントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でバイタルチェックや、全身状態、食事摂取状況、排便の有無等現状の把握に努めている。又、利用者様の出来る事を活かせるよう、野菜の皮むきや縫い物、毎日使う新聞折り等を依頼して作業としても取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者は各担当利用者様の把握に努め、担当者会議やグループホーム会議にて意見交換を行っておりご本人やご家族の希望を聞き意見を反映させた計画を作成している。	ケアプランの更新は、居室担当者を中心に職員からの意見を聴き、課題について話し合いながら作成されています。モニタリングの際には、ニーズに対しての利用者の充足度なども検討されています。更新は基本的に半年ごとに行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアノートに記載し毎月のモニタリング、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化により定期的診察以外の受診や、余命宣告を受けた方のふるさと訪問等、状態に応じて柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各地域への季節に応じたドライブ等を行っている。また、小学校にて行われた落語会の参加や他の事業所で開かれている絵画教室に参加され展示会へ出席されて写真撮影される等楽しみを持って頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が入所前にかかっていた病院にて診察を受けられている。又必要時は家族が付き添われ納得が得られる様説明を受けられている。異常や特変があれば随時家族に報告している。受診には診療経過表を持参し、前回受診の記録や服薬の確認ができるように努めている。	利用前からのかかりつけ医の継続受診は可能とされています。協力医として車ですぐの平戸市民病院があり、夜間の急変時にも対応されています。利用者の体調に変化がある場合には、家族への早めの連絡に努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設として特養に看護師が在中している事により体調不良時や急変時の指示を仰ぎ利用者が適切に受診できる様支援している。又いつでも相談できる関係を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーの提供と面会にて病院側と情報交換、相談に努め病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より余命宣告(癌告知)を受けた時点で家族と話し合いをして同意書を交わし、状態の変化に応じて食事の形態を話し合ったり補助食品を取り入れる等管理栄養士との連携も図りながらチームで取り組んでいる。又、状態の安定している時期にご姉妹との面会の場を設けたり出身地への訪問をしたりと関係者と共に支援に取り組んでいる。	ターミナル期に入ってから、状況の変化をみながら家族や医療機関と話し合い、ホームで出来る限りのケアを提供されています。利用者が何を希望されているかを職員で話し合い、利用者の心が安らぐよう努められています。それと同時に家族のサポートも行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員は消防署の救命救急講習を受け、緊急時に対応できるようにしている。また職員は吸引の勉強会を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	緊急連絡網の夜間呼集訓練や、夜間消防署や地域の消防団との夜間避難訓練を開催している。職員は消防署の初期消火操法の大会にも参加している。火災を未然に防ぐ為の対策としては、防災カーテンを使用したり、コンセント部の細目な清掃等に努めている。	地域の消防団等との連携のもと避難訓練や他施設との合同訓練などを実施し、防災意識を高められています。防火・通報装置などの器具点検なども行われています。災害時の備蓄は、同法人施設の管理栄養士と相談して決められており、必要な3日分の食糧が備えられています。	災害に対する準備はされていますが、基準となるマニュアル作成や、災害時の職員の手順などについては、さらに話し合いを重ねられることを推奨します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を用いたりその方に応じて安心できる対応を考えながら本人の人格を尊重し言葉かけをしている。	職員全員が接遇マナーについての研修に参加されており、言葉遣いや態度など、相手に敬意を払って接するように心掛けられています。トイレ誘導の際も、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮して声を掛けられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢ができる言葉かけを行い希望を話せる様な雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調を把握し身体面では柔軟な対応ができていますが、重度化により利用者の生活面では希望に添った支援ができていないのが現状。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など洗面所の鏡の前で自分で髪を整えたり、美容師資格を持った職員により散髪も定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭き、お茶入れ、配・下膳、茶碗洗い等を利用者様にも依頼している。誕生会ではメニューを本人から聞き野菜の皮むきや牛蒡削ぎ、面取り等して頂いている。又梅干し作りでは梅のヘタ取りシソちぎり漬け込み、土用干し等各自が行えることを行っている。	台所は対面式で、料理が出来上がる様子をうかがうことが出来る造りになっており、利用者は台所内に気軽に立ち入り、エプロン等をつけて料理の手伝いや食器洗いをされています。毎月一日は、赤飯と刺身の献立が提供され、利用者も楽しみにされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各、個人に合った形態、量、嗜好を取り入れながら管理栄養士の立てた献立によりバランスのとれた食事を提供している。又、栄養補助飲料やゼリー等取り入れ一人一人の状態に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶にて毎食後の口腔ケアを行っている。自力では困難な方には介助を行い、義歯は外して洗い、口腔内の観察に努めている。又、義歯洗浄剤を用い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全入所者が日中はトイレにて排泄されている。訴えの無い方については本人の尿間隔を推察しながらトイレ誘導を行い、尿汚染がないよう取り組んでいる。又夜間でもPTイレで排泄可能な方は介助行い自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立支援に取り組まれており、利用者ごとのカンファレンスでも色々な意見が出されています。意思表示が難しい方でも、排泄パターンを把握し、タイミングを見計らいながら言葉かけを行うなど、排泄の失敗が少なくなるよう努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や上下肢運動等行い腸の蠕動運動を促進に排便を促している。起床時に早朝に牛乳、10時にカスピ海ヨーグルトを提供している。排便困難時は水分、果物、さつま芋を摂取して頂き便秘の予防、改善に努めている。なるべく下剤を用いず排便のコントロールができる様目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わって頂き家庭的な雰囲気を楽しんでもらえる様支援している。体調・体力等本人の状態により回数や時間帯は職員が決めているが、希望があればいつでも入浴できる様配慮している。	利用者の体調などを考慮しながら週に2～3回の入浴が行われています。利用者からの希望があれば毎日入浴することも可能です。浴槽にゆっくり浸かって頂けるように介護度の高い利用者の場合は、職員が2人体制で支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠の場合等は夕食後もホールで過ごして頂き遅めに床につかれたり本人のその時の状況や希望に応じて支援している。夜間、不眠時は話をきいたり暖かいお茶を一緒に飲んだりして安心して休んで頂ける様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時約が処方になった場合は口頭での申し送り、申し送り帳を活用するなど各自が副作用の出現に注意し、症状の変化にも気付くことができる様努めている。又、服薬介助時は2人での氏名の確認により誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	故郷訪問をして懐かしい場所へ出かけている。又季節に応じて花見や海遊び、そうめん流しなど気分転換が図れる様支援している。又誕生月の方に嗜好品を尋ねメニューに取り入れ楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	畑作業、柿取り、桜の花見など近くを散歩する事もあつるが重度化により全面的介護を要する方が多く時間的な余裕がなく最近は行っていない。しかし、休みの職員でボランティアにて終末期の方のふるさと訪問を行った。	回覧板を近所に持って行く際や買い物、ゴミ捨てへの同行など、日常的な外出が行われています。手づくりのお弁当を持っての花見ドライブやそめん流しなどの外食支援も実施されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品など買い物等は希望があれば随時検討している。高価な物の場合はご家族にも相談の上購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望に応じて、随時電話をかけてお話しをされている。今年は利用者本人に年賀状を作成してご家族に郵送する予定。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、食事の際には音楽を流して和みの空間を心がけている。また各居室には本人の写真やバースデイカードを飾るなど自分の空間として楽しんで頂いている。	ホームは日当たりが良く、台所・風呂場・リビング・廊下全てにおいてゆとりのある造りとなっています。解放感のあるリビングには、入居人数以上のソファが設置してあり、利用者は好きな場所で過ごすことができます。気温・室温の空調管理も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者様と思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に行くとってきた花を居室に飾られる方もおられる。本人の作品を飾られる方もおられる。馴染の家具、物を持ち込まれる方は少ないが、居室にお連れすると「我が部屋がまっている」と笑って言われ安心されている様表現をされる。	居室には、自宅で使い慣れた家具や小物を持ち込むことができます。各部屋には大きな掃き出し窓があり、窓からはバルコニーに出ることができます。乾燥する季節には各居室に加湿器が置かれ、湿度の調整などによる健康管理への配慮も見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のクローゼットに衣類の表示はしているが収納できる方は少ない。本人のできる事、力があっても重度化により介護者の時間の都合で手をかけ能力を奪ってしまっている傾向にある。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			